

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年9月10日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.148]

## JRだけではない！革マル派浸透に警戒心を！

「JR革マル派43名リスト裁判」で原告のJR総連側が提出した準備書面にに基づく検証を続けたい。前号では準備書面にある「JR発足後も、JRの組合内に、従前の産別組織としてのグループは存続した」とする記述と、警察が作成したと確実視される革マル派「綾瀬アジト」の分析資料を対比し、両者の符合性について検証した。革マル派の「産別組織」について、「綾瀬アジト」資料をさらに紹介して説明しておきたい。

### 労働戦線の指導機関

労働戦線部門については、専門部として、「政治組織局」の下に約25人からなる「中央労働者組織委員会」が設けられ、「産業別労働者組織委員会」を指導している。また、各地方委員会には、数人単位で、指導連絡のための組織専従員が中央から派遣されている。「産業別労働者委員会」は、機関誌等で公表されている

全通労働者委員会、教育労働者委員会、自治体労働者委員会、交通運輸労働者委員会、金属労働者委員会、電機労働者委員会、化学労働者委員会、マスコミ労働者委員会、電通労働者委員会、中小企業労働者委員会、重工業労働者委員会、社会事業運輸労働者委員会

の12委員会を確認しているが、このほかに、公表はしていないが、以前の「国鉄委員会」に替わる「JR委員会」がある。そしてJRについてのみは、表見的には「交通運輸」に属しているポーズをとっている。

## 労働組合への革マル派の浸透の手口を徹底検証！

このように、革マル派はJR以外にも、各産業別に組織をつくっていることが明らかにされている。JR総連ほどの勢力はないものの、連合の構成産別の中にも浸透が進んでいることは確実だ。革マル派は、1989年11月の連合結成に際し、「労働戦線の統一という名の日本労働戦線の帝国主義的再編＝産業報国会化の完成」と捉え、「いまこそ、日本労働運動の戦闘的再生のために奮闘する」と主張しているが、その一方、水面下で着々と内部への浸透を図ってきたと考えられる。連合構成産別への革マル派浸透にも、十分な警戒心を持つことが必要である。なお、革マル派の労働組合への浸透の手口について、「No.142」「No.143」でも紹介した「治安フォーラム」平成22年6月号「『善良な市民』の仮面で革命勢力としての真の姿を隠して活動する革マル派」（松尾学著）の一部を記載する。

### 1 仮面をかぶった活動 (2) 「労働者連帯ネットワーク」

同派(注:革マル派)は、元々、JR以外の基幹産業の労働組合にも浸透を図ってきている。同派の伝統的なオルグ手法は、「のりこえの論理」と呼ばれる。その手口は、一方では、連合等の既製労組を厳しく批判し、他方で、その既製組合に加入する正規社員に工作を行ってオルグするというもので、これが一般的であった。

「のりこえの論理」既製の大衆・労働運動の戦術やイデオロギーを批判し(理論上の「のりこえ」)、他のセクト等を「革命的に解体するための党派闘争を勝ち抜き(組織上の「のりこえ」)、運動上の「のりこえ」を実現するというもの。

革マル派は、周囲に警戒心を抱かせないように、同派の活動であることを巧妙に隠し、各層に浸透を図っている。検証を通じ、その危険性をさらに訴えていきたい。